

A O B A N O K A Z E

# あおばの風

第60号

青葉区民生委員児童委員協議会



## 赤ちゃんから高齢者まで ~地域と関わって~

私たち民生委員児童委員は行政、自治会・町内会、学校などでいろいろな世代の方々と関わりながら活動しています。子育て広場や高齢者食事は地域を応援する活動です。工夫をこらした取り組みのいくつかを紹介します。その他、大切な役割のひとつに高齢者見守り訪問があります。

### おじいちゃん ボランティア活躍中



やさしいおじいちゃんは  
子どもたちにも人気者

### 夏休みの中学生が ボランティアで参加

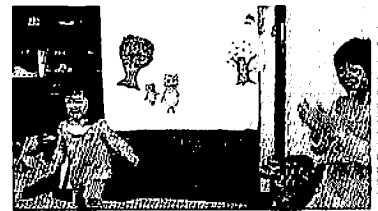


初めて抱く赤ちゃんにハラハラ  
ドキドキ「私たちもこんなふうには  
小さかったのかな？」

### 子育て広場

赤ちゃんもパパ・ママもお友だちが増えてホッとできる場所。多くは主任児童委員・民生委員が中心となって開いています。地域のいろいろな人が関わっています。

### お話ボランティアによる パネルシアター



趣味を生かして積極的に活動、  
子どもたちの生き生きとした  
目が印象的

### 高齢者食事会

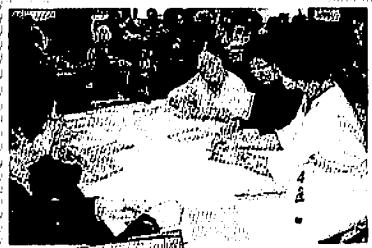
おいしい食事に会話がはずみ  
楽しい親睦の場となっています。  
一緒に活動するボラン  
ティアと民生委員のよい交流  
の場でもあります。

## たくさんの 笑顔に 出会える喜び

### 楽しい小物づくり

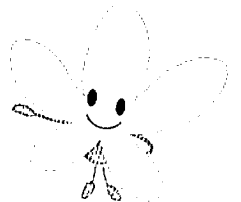


自然にこぼれる  
笑顔が素敵です



手先を使うので頭  
の体操になります

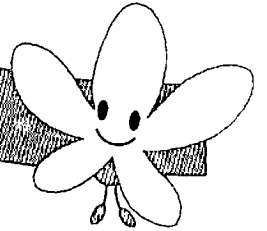
開催時期や回数、他の機関  
やボランティアとの連携、  
異世代交流など、それぞれの  
地区や地域  
の特色が生か  
されています。



回 覧									
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

承認  
青葉区第6号

# やっけて良かった 民生委員



今年は3年に一度の民生委員改選の年です。多少の苦勞もあったでしょうが、多くの人たちから「良い経験をしています」という声を聞きました。

## こんなことがありました

- ・東日本大震災直後、日頃の訪問先を回りました。顔を合わせ、声をかけて、とても喜ばれました。皆さん不安だったようですが、自分も不安だったのです。お世話しているようで、実はこちらの気持ちも救われています。
- ・犬の散歩時に知り合ったお子さんが不登校でした。犬をつれて一緒に学校に通いましたが、そのうち、一人で元気に行くようになりました。
- ・主任児童委員をしていることで、自分の子どもが役割を理解し、地域活動にすすんで協力してくれるようになりました。

## 充実感があります

- ・地域や高齢の方から学ぶことが多く、日々自分を成長させてもらっています。
- ・活動を通して支えあえる仲間がたくさんできました。

## 嬉しかった！

- ・地域の子どもたちとも親しくなり道で会って挨拶。嬉しくなりました。
- ・ひとり暮らしの高齢の方が訪問を心待ちにし、とても喜んでくださいます。
- ・いろいろな学校行事に参加できました。特に卒業式に感動！

## 勉強になります

- ・いろいろな研修に参加。話題や視野が広がりました。
- ・自分の将来を考えさせられています。
- ・親の介護にも役立ちました。
- ・民生委員でなければ見学できない施設など、勉強になりました。

## 全体研修会

### 第15回講演会「子どもの心と体を守ろう」

### 「子どもへのまなざし」

保護者や子育て支援者へ送るメッセージ

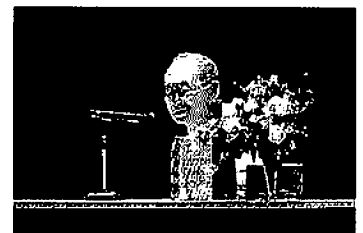
児童精神科医 佐々木正美先生

2013.6.7

青葉区ではなかなか聞く機会がなかった佐々木先生の講演会には民生委員、PTA、子育て中の母親など約600名が集った。40数年に渡る研究と実践の中から豊富なデータを用いて的的確な話で聴衆は熱心に聞き入り、予定時間を越えた。

引きこもりや不登校がこんなに多いのは、他に類を見ない、日本独自の傾向である。また、日本の若者は中国・韓国と比較しても驚くほどの無力感と厭世観を持っている。そして非行に走る子の共通点は、記憶に

ないほどの幼児期に、「振り返ったら母親の視線がある。自分がしっかり見守られている」という経験がなかった。また、引きこもりは



＜大切な人と喜びを分かち合う感情＞が未発達であることによる。育ててくれる人との愛着は人を信じ、自信をもって生きていく力になる。(講演内容より)

「子どもは本音で語り合え、自分をしっかりと受け止めてくれる人の中で育つ。家族だけでなく、民生委員を始め地域や多くの人とのつながりの中で健全に育つ」という言葉は保護者や子育て家族を支援している私たちへの心強いメッセージだった。

(上谷本地区 檜垣萌美)

## 地域に温もりを 民生委員って…

青葉区民生委員児童委員協議会 会長 三村徳子

新聞やその他のメディアで「民生委員」という言葉をこの頃よく目にします。高齢者の行方不明問題の時や東日本大震災の時なども、担当地域での民生委員の活動が話題になりました。また「民生はいったい何をしていたの?」と故なく非難されたりもしています。

地域の人が気持ち良く過ごせるようにと活動している民生委員は、自分の知識や経験を活かして、大切な情報を地域に伝え、必要なときには各機関と連絡を取り、住民のお役にたつように考えています。

「そんな大変なこと…」と思われがちです。そうではありません。誰でも、困っている人を見たら、助

けたいと“優しいおせっかい心”がうずきませんか。

「でもどうしたらよいか分からない…」民生委員は、研修会で学び、定例会などで民生委員同士が話し合い、情報を交換して身に付け、さりげなく対処できるように、いつの間にかなるものです。温もりのある街をつくりたい…同じ価値観を持つ民生委員同士は気持ちのよい活動を続けています。

今年が民生委員の一斉改選の年です。任期は3年、もちろん再任も大歓迎です。一朝一夕には培うことのできない経験や知識を一期3年で終わらせてしまうのはとてももったいないと思います。地域にも慣れ委員同士の結びつきもしっかりできた民生委員はとても頼りになります。新しく民生委員をしたいというお仲間の増えるのも楽しみにしています。

# こんなサロン あります! 作りました!

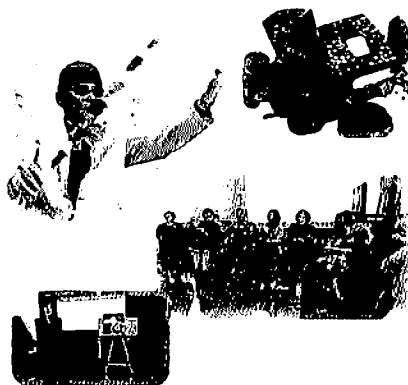
「こんなサロンがあったらいいのに」という声をうけ、民生委員と地域のボランティアが協力していろいろなかたちのサロンが生まれ育っています。そのいくつかをここに紹介します。

## 毎月いろんなことを やってますよ!

和服の布やレースでコサージュ作り、マジック、ギターの弾き語り、絵本の読み聞かせ、アロマセラピー講座、公園の散歩、お花見などなど…。

次は何か? 楽しみ～～

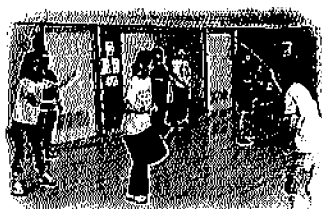
月1回: さつきが丘地域ケアプラザ  
-カエデの会-



## 地域と子育て世代をつなげる場!

お茶を飲みながらおしゃべりしたり、体を動かしたり手仕事をしたり…子育て家庭の仲間作りや地域の方々をつなぐカフェです。

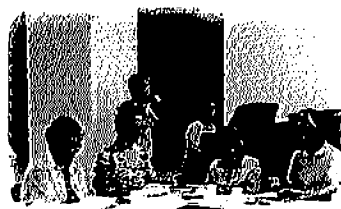
月1回: 美しが丘中学校他  
-美しが丘カフェ-



## 美術館で優雅に おしゃべり

時にピアノやバイオリンの生演奏を聴きながらゆっくり。

月1回: 桑野美術館 1F  
-くめのサロン-



## 週2回もオープン!

「年末年始以外無休」だから、今日は行けなかったけど次回は…。おしゃべりや麻雀も楽しみ!

月・木: マンション集会室  
-サロン・ド・ビレッジ-



## こだわりコーヒーと 手作りケーキで!

コーヒー大好きな80歳代男性にケーキ作り好きさんが加わっておいしいサロンに!!

月1回: マンション集会室  
コーヒーとケーキで200円  
-コーヒーサロン-



主任児童委員便り

子どもたちの笑顔のために

主任児童委員は、子育てを応援しています！

青葉区は赤ちゃんの多い地域です。実際に地域の育児教室に行っても、少子化といわれる時代にも、こんなにたくさんの新しい命が生まれ育っているのだと実感し、うれしい気持ちになります。しかし、近所づき合いが希薄で、孤独な子育てをしている親も少なくないようです。私たちは、そのような人たちの応援ができたならと活動しています。話すことで気持ち楽になってもらえたり、また、必要があれば保健センターなどの支援先につなぐパイプ役となっています。

育児教室などでお会いしたお母さんから「子どもが大きくなりました。ありがとうございます」と声をかけられることがあります。そんな笑顔に出会うと、こちらが元気になります。人は誰かの役に立つことで、実は自分が力をもらっているのだと、活動をしながら日々感じています。ほんのわずかなきっかけで知り合った親子でも、その成長を見続けていくことができるのは本当にうれしいことです。それは、この役目をいただいたからこそ喜びと思っています。

子どもは、未来への大切な贈りものです。小さなことしかできないけれど、未来を担う子どもたちを育てるお手伝いができたらと思っています。

みんなが顔を見合わせて言葉を交わす「まち」にするため、そして、大切な子どもたちが笑顔で過ごすことができるように、私たちはこれからも活動していきます。

(山内地区主任児童委員 吉村由美子)

オレンジリボンは子ども虐待防止のシンボルマークです



紹介します

区福祉保健課運営企画係 長谷川 淳 係長

前任の金指係長に代わり、今年度から民生委員をサポートしていただきます。よろしくお願いします。



コラム あおばのかぜ

皆で担う子育て広場

各地区の子育て広場の状況を見てきますと、月に1回ないし2回行われている地域が多いなかで、毎週行われている所がありました。

ここも初めは月1回でしたが、「毎週火曜日に行けば誰かがいる」「悩みを聴いてもらえる人がいる」という安心感は、母親が孤独にならないために必要ではないかという思いで、毎週行うことになりました。

この広場は、主任児童委員を中心に、地域を越えた民生委員、保健活動推進員、大勢のボランティアの協力を受けています。子育て広場には珍しいシニア男性グループからのお手伝いがあり、優しいおじいちゃん役で人気者です。

和やかな雰囲気のコヒーブレイクでは、しばしお子さんから解放されたお母さんたちの会話も楽しげです。お母さんたちがそれぞれ仲間を作り、ここから巣立っていく日が来ることを願っています。

地域の団体を巻き込んで行っているこの試みは、さまざまなグループが関わることで、より大きな力になり、かつ一人一人の負担が軽くなります。結果として地域ボランティアを育てていくことにつながり、これも民生委員児童委員としての大切な役割のひとつだと感じました。

(谷本地区 豊崎智子)

編集後記

今号は発刊以来20年で60号の節目となりました。

今回は“やって良かった民生委員”をテーマに取りあげました。もちろん民生委員活動では楽しいことや苦労もありますが、地域の皆さんと触れ合う中で生まれる喜びが、何よりもやり甲斐だと改めて感じました。そして、私たち広報部員は、他地区の活動の様子まで学ぶことが出来ました。“やって良かった広報部員！”

(村上 記)

60号担当：広報部代表 豊崎 智子

- 青山 由馨 石田 智子 大原 義男
西澤 法子 檜垣 萌美 松下 ユウ子
村上 希史子 吉村 尋樹